



媚香師インテグラに囚われたマジカル騎士達!

マジカル騎士のアンコはあつたくて  
気持ちいいんだからあ♪



魔神の力を得てパワーアップした  
マジカル騎士の獅○光、龍○海、鳳○寺風。

奇跡の力で次々と神官ザガ○トの刺客達を撃破していく――

だが、<sup>へ</sup>魔の森に進んだ彼女らは  
深い霧によつて分断されて彷徨う……

彼女たちは知らなかった……

神官ザガ○トに雇われた  
媚香師インテグラによる魔法の霧の罠である事を……

分断され心細い彼女達の前に  
太古の原住民が詠唱するような呪文が聴こえてきた……

ラア~~~~スウ~~~~ン  
ゴオ~~~~レラ~~~~イ  
ラア~~~~スウ~~~~ン  
ゴオ~~~~レラ~~~~イ

それは神代の時代の悪魔を讃える呪術祝詞だった……



獅○光

「みんなとはぐれちゃったかな……  
海ちや~~~~ん!  
風ちや~~~~ん!」

ラァ~~~~スウ~~~~ン  
ラァ~~~~スウ~~~~ン

ゴォ~~~~レラ~~~~イ  
ゴォ~~~~レラ~~~~イ

獅○光

「なんだろっ……地元の人の声かな……  
でも邪悪な感じがする……」





謎の声

「くくくく……お前は  
マジカル騎士・光だな……」

獅○光

「ええう！誰？

何故私の名前を知っているの？」

謎の声

「怯えることではない……」

「私はこの森に棲む精霊である……」

「この森は神聖なる土地だ……」

「魔神の武器と防具を解除せよ……」

獅○光

「森の精霊さん……なの？

「ごめんなさい……知らなくて……」

「敵意は無いの……お願い信じて……」





獅○光

「はあはあはあ……」

「なんだか……体が熱いよお……」

「風邪気味なのかな……」

「それになんだか……」

「お股のあたりがムズムズするよお……」

カ~~~~ッ……

ヒア……

ヒア……

ドキ……

ドキ……

謎の声「さあ……早くするのだ……」  
「やつと催淫媚薬を混ぜた  
煙霧が効いてきたよつだな……」





謎の声

「さあさあ……うーは、神聖な森……俗世の衣服も脱ぎ捨ててるのじゃ……」

獅○光

「ぼ、はい……ええ？ 下着もなの……恥ずかしいよお……」

ウウ……

ヒア……

ヒア……

ドキ……

ドキ……

魔神の防具を脱ぎ捨てた獅○光は  
謎の声——媚香師インテグラの催眠暗示にかかり  
衣服をも脱ぎ捨てていく……だが、わずかに残った理性が  
下着を脱ぐのをためらいます……





ラア~~~~スウ~~~~ン  
ゴオ~~~~レラ~~~~イ  
ゴオ~~~~レラ~~~~イ

媚香師インテグラの魔力をこめた呪文詠唱が  
魔の森に響き渡り、マジカル騎士・獅○光の理性を  
とろとろに蕩けさせていく.....

カ~~~~ン~~~~ッ~~~~

ハア~~~~  
ハア~~~~

ハア~~~~

ドキ~~~~

ドキ~~~~

獅○光  
「はあはあはあ.....体が火照るよお.....」

インテグラ

「そうだ.....そうだ.....下着を取り胸をさらけ出すのだ.....  
森の精霊が受け入れてくれようて.....  
次は腰の布当てを取つて生まれたままの姿となるのだ.....」





獅○光

「はあはあはあ……  
森の精霊さん……  
裸になったよ……」

怒らないで……ね？」

ハア……

インテグラ

「森の精霊はそなたを  
受け入れようぞ……」

ハア……

ドキ……

ドキ……

なんとという事であるうか……  
心優しきマジカル騎士は催淫の妖霧の魔力にかかり  
邪悪なる術者で奸智にたけた媚香師インテグラの館へと  
さらわれていった——





媚香師インテグリの黒トハママリ、肉欲を刺激された獅の光は  
理性に反して胸をさらけ出し、媚香師の男根を豊満な胸に包み込んだ……

マシカル騎士のおっぱいは柔らかなで最高だ……  
~~~~~気持ちいい……

はあはあはあ……  
こんな事しちゃ駄目なの……  
体が疼いちゃって……  
いやらしい命令と逆らえないよ……





さあ、マジカル騎士。光よ……  
その胸で我が輩の男根をエロエロSUFUNOONだ……

はあはあはあ……  
うっ……男のエッチな  
匂いがキツイよ……  
本当はこんな事したくない……  
でも、いつ事を聞いてしまっ……

ハア……

ハア……

ニユニユニユ……





おほおほおほ.....  
くくくく.....  
くくくく.....  
くくくく.....

神官ザガオト様に逆らう憎き敵だが  
パイプリーは極上にお気持ちいいぞおお.....



くすん.....私はエメロード姫を幽閉から  
救い出したかっただけに.....  
ごんないやらしいオジサンのお○んちんを  
胸で愛撫しないとイケないなんて.....

やん.....

アッ.....

ハア.....

ハア.....

トッパッ

トッパッ

トッパッ

トッパッ

トッパッ





いやらしいオジサンとは言いつくれるな.....  
我が輩はセフレイローで名高い媚着師インテグリンであるよ

く〜く〜.....だが、まあいい.....なんせこんなと若くて、トチピチした娘に  
みだらなパイプスリ奉仕をさせているのだからな.....

Yes...  
ニア...

ニア...  
かあア...

はあはあはあ.....  
酷いよおお.....海ちゃん.....風ちゃん.....  
魔神のレオアース.....助けてくれ.....

ニア...  
ニア...

ニア...  
ニア...

ムニムニ...

ムニムニ...

ムニムニ...

ムニムニ...

ムニムニ...



はあはあはあ……  
そうしたら、もっとパイプスリムのスピードを上げるのだ……  
気持ち良〜く射精できたなら……後でJのデカマムで  
可愛がつてやるからな……



はあはあはあ……  
うん………そんなあ………  
アッ

でも………理性に反して肉体が  
お〇んちんで買って欲しいって  
お股がウズウズしちゃうよお……  
私………本当はいやらしくいっちゃうの(………)



ズツチュ……  
ズツチュ……  
ズツチュ……  
ズツチュ……







ふいふい~~~~~  
気持ち良かったぞ.....マジカル騎士・光よ.....  
少し休んでからお前下で気持ちよくしてよ.....

はあはあはあ.....  
ベットベット.....臭くも.....  
酷くも.....

はあ.....お股が痒い.....  
濡れてきちゃったよ.....

ニア.....

ニア.....

トク.....

トク.....

ド.....

ロ.....  
オ.....







どれどれ.....お〇んこを御開帳させて貰うが.....  
ふむふむ.....まだ綺麗なピンク色をしておるわい.....  
しとどに濡れた愛蜜をいただくか.....

ぴちやぴちや.....むほおおお.....  
うまい.....美味しいぞおおお.....

ピクッ

ひゃん.....  
アア.....

ひゃあああ.....

光の大事なトコロ.....開いて見ちゃだめえ.....  
くっ.....はあああ.....な、舐めちゃ.....  
舐めちゃ駄目ええええええ.....あんっ！

くっおッ.....

くっ.....  
くっ.....

mm

mm







いやいや……十分に挿入できる大きさだ……  
始めは少し辛かろうが……  
じきにコシ無しではいられないほど  
快楽の虜になるぞよ……

はぁ♡  
はぁ♡  
はぁ♡

やぁあぁあぁあぁ……  
やめてえええ……  
何でもするから……あつ……

ひゃあぁあぁあぁあぁ……んん……

らぁ♡  
ア……  
ア……  
ア……

ア……  
ア……  
ア……

ぬ

30

くちゅ……



それそれ.....たっぷり濡れているから  
抜き差しがスムーズにいくぞおお.....

やはり若い娘のおウンは  
溜まらぬ気持ち良さだのおおお.....

アーン♡

アーン♡

あんっ.....くはああ.....  
やめてええ.....あんああ.....  
そんなにおお.....突いちゃ.....  
ダメなのおお.....

ブルブル♡

ブルブル♡

ぬちゅっ

ぬちゅっ.....

クチュッ

クチュッ

クチュッ

クチュッ









むふふ~~~~  
憎き敵ではあるが.....  
なんと心地よい腔肉だわい.....  
マジカル騎士の娘つ子、三人とも  
僕の肉奴隷にしてやるわい.....

ひアア.....

ひア.....

ひア.....

はあはあはあ.....  
そんな.....私達は.....  
あなたの肉奴隷なんかじゃ.....  
はあはあはあ.....

トロ~~~~~

トロク.....

トロク.....





媚香師インテグラはマジカル騎士・光を堪能すると配下の男達に下げ渡した  
女に飢えた杜英が可憐な光に集まり、尻を持ち上げさせてパンティを  
ずらして秘部を眺めまわした——

ドキ...

ドキ...

ハア...

ハア...

男「びびびびびび.....」

異世界から来た娘っ子にはお○んじに  
歯でも生えているかと思ったら俺達の世界の  
娘っ子のお○んじと同じようだな.....

獅○光「ひゃあ〜ん

み、見ないでよお.....」





男1「ようしや、伝説のマジカル騎士様のお○んこを  
頂くとするか……ぐひひひ……チ○ポが勃起してきたぜ……」

ヌウ……

ピト……

ドキ……

ヤア……

ドキ……

獅○光「えええ……」

もしかして、ここにいる男達全員を  
相手するのぉ……」

男2「おい、早くすませるよ……」

あとがつかえていゝんだからな……」





男1「さういふ事だ……よるしく頼むな……ほらよひん……  
うほおおお……こりや大当たりのお○んこだも……」

ズルチュチュ……

ビクッ！

獅○光「そ、そんなあ……  
海ちゃん……風ちゃん……  
助けてえええ……あ……」

まひやういんいんいん！

男2「他のマジカル騎士もすべしと捕えた……  
おっつけいこの部屋に来るたるいんいん……」

ヤァァァァ……！





男1「はあはあはあ……  
なんて気持ちいい膣肉だ……  
手○ポに吸い付いてくるぜええ……」

男3「はあはあはあ……  
順番が待ちきれねえ……  
痴態を見ながら  
オカズにさせて  
貰うぜえ……」

獅○光「はあはあはあ……  
や、やめて……  
あああん……」

男4「俺も……  
俺も……」

「アッ……  
アッ……  
アッ……」

「パッ!」  
「パッ!」  
「パッ!」  
「パッ!」  
「パッ!」

「アッ……♡」

「アッ……」

「アッ!」

「アッ!」





男1「おはっ……  
それっ、精液ぶっかけてやる……」

男3「俺も限界だ……」

男4「美少女の顔に  
ぶっかけてやる……」

ビュクッ!

トクッ!

ゴッ!

ゴッ!

ビクッ!

ゴッ!

ゴッ!

獅○光「いやあ……おっ……  
やめて……」

らめえええええええええええええええ……

男5「おほおほ……  
気持ちいい……」

……



男1「ふい~~~~~」

いつもより興奮したぜ.....  
さすが異世界の娘つ子だ.....」

男3「むぼろ~~~~~」

良かったあ.....」

ドロ...

ドロ...

獅○光「はあはあはあ.....  
ひびく.....ひびく.....  
「.....酷いよおま.....」

男2「おいおい.....

あとから犯る奴の事おぼろげに.....  
汚ねえなあ.....」





鳳の寺風

「光さあ~~~~ん！ 海さあ~~~~ん！  
どうやら……一人とはぐれてしまったようですわね……  
どうしましよう……」

ラァ~~~~スウ~~~~ン  
ラァ~~~~スウ~~~~ン

ゴォ~~~~レラ~~~~イ  
ゴォ~~~~レラ~~~~イ

鳳の寺風

「まあ……何の声かしら……  
不穏な気配がします……」





謎の声

「貴様は魔神の加護を得たマジカル騎士だな……」

鳳の寺風

「ほう！だれ、誰ですか？」

謎の声

「我はこの森の精霊である……」

「神聖な地に武器と防具を持ち込むとは何事であるか……すぐ脱ぎ捨てて解除せよ……」

鳳の寺風

「まあ、そうでしたの……」

「ですが……ここで脱ぐなんて……」





不承不承、鳳○寺風はマントを脱ぎ甲冑を取り外し始めた……

鳳○寺風

「はあはあ……なんだか体が  
ポカポカしますわ……  
何か……変ですわ……」  
（どうしましよう……体が火照りますわ……）

ドキ……

リア……

リア……

ホ……♡

謎の声

（く……く……く……）  
風のマジカル騎士も  
我が術中にハマって来たようだな……（）

ドキ……





謎の声  
「ほれ、すべて脱ぐのだ……」  
「ここは神聖なる聖域であるぞよ……」

鳳○寺風

「えええ……裸になれと言うのですか？  
あなた本当に森の精霊なんですかア！」

キャア……

カ~~~~~!!!

謎の声

（ふうふうむむ、さすが参謀役の  
マジカル騎士……催眠状態でも  
理性が勝りそうだな……）

謎の声こと媚香師インテグらは  
催眠媚薬混入の魔法霧を強化し  
呪文詠唱をはじめた——

ドキ……

ドキ……





ラァ~~~~スウ~~~~ン  
ラァ~~~~スウ~~~~ン

ゴオ~~~~レラ~~~~イ  
ゴオ~~~~レラ~~~~イ

媚香師インテグラの呪文詠唱と人工煙霧が  
風のマジカル騎士・風の理性を封じ込め  
官能を刺激し、催眠状態が深くなっていく――

カ~~~~ン~~~~

ヒッパ!

ヒッパ!

鳳○寺風

「はあはあ……はい……  
わかりました……」

暗示にかかった風がブラを外し  
豊満な乳房をさらけだす……

ドキ~~~~

ドキ~~~~





鳳○寺風

「はあはあはあ……  
森の精霊さん……  
これでいいですか？」

インテグラ

「おおおお……なんと美しい姿だ……  
貴殿を森に受け入れようぞ……」

カ~~~~…

リア……

リア……

ドキ……

ドキ……

催眠暗示にかかったマジカル騎士・風は  
インテグラの手下に捕らわれ  
森の奥にあるインテグラの館へ連れ去られていく——





媚香師インテグラの催淫媚薬「ミダリア」を嗅がされ、  
意思に反して肉体が疼き悶え始めたマジカル騎士・鳳の寺風——  
パイズリをせよという理不尽なエロ命令に抗えられなかつた……  
さあ、風のマジカル騎士よ……  
その豊満な胸で我が大陰茎を包み込むのだ……

ドキ……

ピクッ!

アウ……

ドキ……

うう……

はあはあはあ……こんな理不尽な命令を聞く  
いわれは無いのに……体が勝手に……  
催眠術みたいなモノでしようか……

110



くくく……いい線をついているな……  
これは僕が調合した催淫媚薬香へミダリアだ……  
女の官能を刺激し、性的な命令に逆らえなくなる秘薬よ……

さあ、胸を持ち上げ亀頭を包み込むのだ……

ドキ……

ドキ……

ム

ニユニユ……

はあはあはあ……  
道理で肉体が疼くのですわ……  
なんとか……はあはあ……  
しないとですわ……



そう簡単には我が秘蔵の魔力からは逃れられぬぞ……  
異世界から来たマジカル騎士よ……  
さあ、その豊満なおっぱいで我が男根を愛撫するのだ……

悔しいですわ……  
こんないやらしい命令に  
抗えないなんて……





むほおおおお……これは炎のマジカル騎士とは  
また違った肉庄……いいぞお……いいぞお……

ニア……

ニア……

はあはあはあ……  
そんな……光さんまで  
囚われていたなんて……

ニユン

ニユン

ニユン

ニユン

ニユン





くくくくくく……魔の森で彷徨っていた水のマジカル騎士も  
すでに我が配下の者が捕えている……  
一人ずつ調教してくれるわ……

そ、そんな……では……  
救援する者が一人も……

そう悲観するな……言っ事を聞けば  
優しくしてやるわ……

さあ、パイプスを早めるのだ……  
そうしたら……





むほおおお.....おほおおお.....  
これはたまらん.....  
そらっ、精液の大量放出だあああ.....

アアア...

ビュルルル...

ビュクッ!

ビクッ!

あんっ.....  
先端が膨れて.....

おはー！

んん  
ん





ふう~~~~~  
気持ち良かったぞおお.....  
風のマジカル騎士・風よ.....

はあ.....

はあ.....

はあはあはあ.....  
胸に.....顔に.....  
男性の精液で.....  
いつばい.....

はあ.....

ぷん.....

ん.....

ん.....

ん.....





鳳の寺風  
「はあはあ  
嫌なのに……  
理不尽な命令に  
逆らえませんか……」

インテグラ  
フック……  
いいパイプ  
だった……  
さあ、次は  
四つん這いになつて  
尻をこつちだ  
向けるのだ……」

ハア……

ハア……

ドキ……

ドキ……

プリン♡

モク……







又アアアア...

くほおほおほお.....  
若い娘のおんこは  
陰茎が反応して  
自然と勃起して  
しまつわい.....

はあはあ.....  
いや.....  
嫌ですわ.....  
こんな卑劣な方と.....  
でも.....  
肉体が.....  
疼いてしまつ.....

はあ

はあ









それそれ.....  
おんこた  
抜き差しするこ  
もつと快楽が  
倍増するぞ  
それそれ.....  
やあ.....  
はう.....  
く.....  
だ、だめ.....

あは.....

お願い.....  
これ以上は.....  
ひやふ.....

ニク.....

う.....







むふふ~~~~~  
炎のマジカル騎士も  
そつだが.....  
あなたが.....  
あつたでよ.....

ささてさて  
水のマジカル騎士は  
どんな味がするか  
愉しみじやて.....

はあはあはあ.....  
私を無理矢理  
犯しておいて.....

さらさら海さんを  
毒牙にかけようと  
目論むなんて.....  
なんて.....  
極悪人なの.....

人ロ

ヒク...

ヒク...

ヒク...

ヒク...





媚香師インテグラに凌辱されたマジカル騎士・風……  
彼女はインテグラの配下達に下げ渡され  
女に飢えた男達がその柔肌にむしゃぶりついた……

イヤァ……

ひゃん……

モミ……

モミ……

とぅ……

む

ち♡

鳳○寺風  
「ひゃあぁぁ……んん  
そんな……強……  
揉んじや……いやぁ……」

男1「くひひひ……やと下げ渡して貰ったぜ……  
この異世界から来た姉ちゃんのおっぱいを  
揉みしだきたかったんだ……  
むほおお……やわかくて気持ちいいせえ……」



男2「お前ばかりズルいぞ……  
さあ、その華奢な指で  
俺の手○朶を握ってくれ……」



鳳○寺風  
「ごうとう……  
ごうとう……」

男2「はあはあ……  
俺の肉棒も握ってくれ……」

男1「なんだお前たち待てないのか……  
しょうがねえな……  
俺はお○ン○をいたたくせえ……」



男2「指で前後にしゃくんだ……  
うんうん……いいぞおお……」

あああぁっ!

ムムム……

鳳○寺風  
「ひゃあああ……アッ!  
そこは……らめえ……」

男1「むほおお……」

異世界の女の膣肉も  
セフィーロの女と変わらねえ……  
気持ちいいぞおお……」

男3「そこか……気持ちいいか……  
俺も後でハメてやるぞ……」

モミッ

モミッ

ムムム……

ムムム……

ズ  
マ  
マ

ゴ  
ゴ  
ゴ…







男2「ムムム……精液がほんまにあ……」

ズブズブ!

ビクッ!

ビクッ!

ドクッ!

ビュルル...

ビュルル...

ピク...

ピク...

ひやひや……  
くばり……あんっ  
らめえええ……

男1「俺も中にたっばり  
出してやるからなあ……」  
男2「俺もだああ……」









龍○海

「光う~~~~~!風う~~~~~!どこへ行ったのおおお……」

んもおおお……元の世界に戻るときは皆一緒なんだからねえ……」

ラア~~~~スウ~~~~ン  
ラア~~~~スウ~~~~ン

ゴオ~~~~レラ~~~~イ  
ゴオ~~~~レラ~~~~イ

龍○海

「ん?何かしら……不気味な呪文みたいなのが聞こえる……地元の魔術師かしら?」





謎の声

「魔の森に侵入する者は誰か……  
「ここは聖域なるぞおおお……」

龍○海

「ひゃん！だ、誰よ……  
ビククリするじゃない……」

謎の声

「我はこの森を守護する精霊である……  
魔神の武器と防具を持ち込むとは  
けしからん……今すぐ解除せよ……」





龍○海

「ええええ……防具を取れっというの……  
しかたないわねえ……」

マジカル騎士・海は不承不承マントを外し  
防具を取り外し始めた……

ホ……

ニア……

ニア……

ドキ……

ドキ……

龍○海

（はあはあはあ……

なんだか体が火照る……

それに……なんだか……はあ……

エッチな気分になってきたような……）



謎の声

「何をしておる……すべて脱ぐのじゃ……」  
（くっくっくっ……スケベな体をしておるわい……）

龍○海

「はあはあはあ……」

「これ以上脱げたらこの……嫌よ……エッチい……」

カ~~~~ッ……

ハア……

ハア……

プルッ♡

プルッ♡

むち♡

謎の声

（ふ~~~~む……この娘も意思が強いな……）

催眠呪文を唱えるか……）

催眠媚薬を混ぜた霧を強め





ラァ~~~~スウ~~~~ン  
ラァ~~~~スウ~~~~ン  
ゴォ~~~~レラ~~~~イ  
ゴォ~~~~レラ~~~~イ

龍〇海

（はあはあはあ……頭がぼ~~~~こと~~~~きた  
何も考えられないよお……  
それに……体が熱い……やだ……  
オナニーしたくなつてきたよお……）

はあ……

はあ……

はあ……

水のマジカル騎士は媚香師の  
催眠暗示にかかり理不尽な  
命令に抗えなくなつてきた……

ドキ……

ドキ……

龍〇海

「はい……森の精霊の言う事なら……」



龍〇海

「はあはあはあ……  
もっお……いぢぢぢぢぢぢぢぢ……」

謎の声

「おおおおお……素晴らしい肉体だ……  
森の精霊はお主を我が地に迎え入れよう……」

わんわん……

ハア……

ハア……

プルン♡

プルン♡

むち♡

こうして水のマジカル騎士・龍〇海も  
森の精霊を騙った媚香師インテグラに捕らわれ  
インテグラの館へ連れ去れていく……





くくくく……水のマジカル騎士も我が手中に入ったか……  
さあ、その豊富な乳房で我が大陰茎を包み込むのだ……

おほおおお……マジカル騎士・龍の海のパイ挿乳も  
格別の感触よのおおお……

く……く……

ど……ど……

ドキ……

ドキ……

ピクッ!

う……う……  
こんなキモおやじのおのんちんを  
私の胸で密着するなんてありえない……  
なのに……なのに……  
体が……言う事に従ってしまうわ……

ハ

アッ♡









くくくくくく……嫌がる娘を操って言う事を従わせるのは愉しいのおお……

さあ、もっこ小刻みに乳房を前後に揺らさせて淫売婦のように男を愉しませるのだ……

ア……

く……

うん……の甘ったるい煙で操っているのね……

卑怯……卑怯よ……正々堂々と戦いなさいよ……





くはははははは……それはできぬ相談だな……  
この世界に来たばかりのマジカル騎士ならばともかく、  
魔神の力を得たマジカル騎士相手では  
儂程度の魔力ではとても太刀打ちできぬわ……

リア……

リア……

ヌキゅ……

ヌポッ……

ヌポッ……

ヌポッ……

だが、儂の魔香を使えば性奴隷として  
ザガのト様の邪魔を阻止できる……  
儂の性欲も大満足じゃ……

うわあ……最低最悪のキレおやじ……



ええい、さっきからキチおやじ、キチおやじといってるわいわ……  
ふんづ、だがそのキチおやじに肉奴隷とされた貴様は  
みじめよのおお……さあ、もっと激しくパイプスリ奉仕せんか……

そうだ………せいせい………  
のほおお………イキました………

ぐずん……

びわア……

うん………  
そうしたわ………

悔しい………  
みじめだわ………  
早く元の世界に戻りたいよおお………

ピク……

ニムホッ！

ニムホッ！

ニムホッ！

ニムホッ！

ニムホッ！













〜Nani...

はあ...

はあ...

グググ...

プリン...

はあはあ...  
誰がそんな...

さあ、  
水のマジカル騎士よ...  
脚を開いて性器を  
剥き出してするのじゃ...

うううう...  
エッチな命令に  
逆らえないよお...  
どうして...

クモ...

ムフ♡





ピクッ!

ハハ...

くっくっくっ.....  
お前は催淫媚薬香  
によつてただの  
スケベ娘になつたのだ.....

ほれほれ、これが欲しくて  
股は濡れ濡れじゃわい.....

なつ、何を  
バカな.....

ひうっ.....  
やだあああああ!  
そんな粗末なモノ  
しまいなさいよ!

ヌ

ウ

.....







ヤアア...

キキキ...

!!P!!

!!P!!

♡キキキ♡

♡キキキ♡

やああ.....やめっ.....  
キモイキモイキモイ  
やめなさい.....  
ひやうとう.....んん  
やめてえ.....

嫌われたものだな.....  
まあ、無理強いするのが  
たまらなく嗜虐心を  
そそぐて快楽の  
スパイスとなるわい  
ほれほれほれ.....

!!P!!

!!P!!

!!P!!

!!P!!

クキキ

!!P!!







アアア...

びくっ!

うわ...

ピン...

ビュッ!  
ブルッ!

ぽ...

びくっ...  
そら...  
射精すん...  
しつかり...  
受け止める...

ひゃっ...  
なかほ...  
瞳内は駄目...  
ダメなのよお...

らめつたら...  
らめえええええっ!



はあはあ……  
異世界でこんな  
キモいやじに  
犯されるなんて  
悪夢よおおお……

！！ア……

！！ア……

くふう……  
これでマジカル騎士を  
人とも  
ゴブプリントしたぞ……  
くわんわん……

ヒク……

ド  
ロ  
オ  
〜











インテグレーション様もお疲れだからな……  
俺達が可愛がってやるうっていうわけよ……  
くひいいい……今、ケツにぶち込んでやるからな……

ググイッ!

きやああああ……  
そんな……  
一度にこんな……  
相手にするなんて……

ウウ..

ググイッ

はあはあ……さあ、  
その可愛くもロクでもないんだ……







はあはあはあ……奥までチ○ポを  
ねじ込んでやるぜええ……  
んほおおお……  
なんてぬかるみだ……  
すぐ果ててしまいそうだ……

グジュッ

グジュッ

グジュッ

ブルン♡

ブルン♡

ウグッ!

くうぶっ!  
くはああ……

クチュ……

はあはあはあ……  
喉の奥まで突っ込んでやる……  
うほおおお……  
喉ま○こだあ……





はあはあはあ……  
異世界のマジカル騎士様は  
三人とも名器ぞろいだな……

こいつは……たまらねえ……  
イクイクイク……  
イチちまいそつな快樂だ……



うんうんうん……  
だ、誰が助けて……  
……

ハア……

ハア……

プルン!

プルン!



はあはあはあ……  
俺ちおロキ○の腰が止まらねえ……











うっ……  
体が熱い……  
そして疼くわ……  
なんなの……  
この甘ったるい  
匂いは……

ドキ……

ドキ……

ハア……

ハア……

ハア……

く……創師プロセアよ  
魔香ミディアクの味はどうかかな？  
うっ……お前は……  
セイローの薬師ギルドから追放された  
インテグラね……  
神官サガオトの手下になったという  
噂は本当だったんだ……





ヌ~~~~~

ザガ〇ト様のために武器や防具を造れという要請を突っぱねた上にマジカル騎士に武器・防具を与えるとは.....

く~~~~~  
何よ.....  
あんなに媚びへんが  
強い者に媚びへんが  
卑劣漢のくせだ.....

ドキ...

ハア...

ドキ...

ハア...

ザガ〇ト様は御怒りである.....  
僕が代わって懲らしめてみる.....

きゃああああ.....  
下半身を刺さる田〜ド〜ン  
何をやる気.....











グチャッ  
グチャッ  
グチャッ  
グチャッ

ユサッ♡

ユサッ♡  
アハハハ

いくら抗つても  
催淫薬香の  
魔力からは  
逃れられぬて  
.....  
はあはあはあ  
嫌なのに.....  
肉体が疼いて.....  
エッチな本能に  
逆らえなくなる.....

くほおおお.....  
膣肉がチ○ポに  
絡みついてるん.....  
スケベま○こめ.....  
こうしてくわる.....

ダメ.....  
意識を保つのは.....  
うらやま.....あんじ.....  
まぢみんんんん.....

くはア.....









こんな卑劣漢に  
犯されるなんて  
屈辱で吐き出す  
.....

はあはあはあ.....  
うんぬん.....

！！  
ア.....

！！  
ア.....

！！  
ア.....

ア.....

ド.....

口.....

おははははは.....  
どうしたか.....  
思い知ったか.....



龍○海  
「はあはあはあ……  
催淫媚薬香のせい  
で体が熱いわあ……」

獅○光  
「はあはあ……  
私達……  
どうなっちゃっ  
たの……」

鳳○寺風  
「皆さん……しつかり理性を……  
はあ……  
変な気分になっちゃっ  
たの……」





龍の海  
「はあはあ……  
光つたら……なんて  
可愛いのおお……」

獅の光  
「ちよ……  
人とも  
しつかして……」

シウ…  
シウ…

鳳の寺風  
「はあはあ……  
食べちゃいた  
ですわあ……」

男2  
「はあはあ……  
最後に……  
シウ……  
びつかせいな……」

男1  
「メスガキ共  
色気づき  
やがて……」









龍○海  
「はあはあはあ……  
や〜ん……  
ペトペトお……」

獅○光  
「はあはあ……  
海ちや〜ん……  
風ちや〜ん……」

鳳○寺風  
「はあはあはあ……  
もっ……何ち  
考えられませんわ……」

男2  
「ヒロイ姿だぜ……」

男1  
「はあはあはあ……  
ひひひひ……  
精液だらけだな……」

